

徳島県立農林水産総合技術支援センター
令和5年度 第1回外部評価委員会 議事録

日時：令和5年8月28日（月）
場所：農林水産総合技術支援センター大会議室

1 普及指導活動の評価

○徳島農業支援センター

<意見・質疑応答>

●すだち関連技術について（質疑）

委員：すだちの点滴かん水技術について、技術を導入する場合、費用はどれくらいかかるのか。

回答：大きくは薬液を送るポンプとチューブが必要であるが、ポンプは通常すだち農家が所有している動力噴霧器を活用するので、チューブ代が必要となる。チューブ代の費用は地形にもよるが、約15～20万円/10a。

委員：発泡スチロールを使ったすだちの簡略的短期貯蔵について、1つの発泡スチロールに何kg入れているのか？

回答：1箱10kg入れている。貯蔵の際、通常行う予措（よそ）はせず、1℃の冷蔵で保存する。

●阿波アグリガールズラボ（AWA agri-girl's lab.）について（質疑）

委員：構成員は、主として農業を営んでいる女性なのか、それとも家族経営の中で労働力として頑張っている女性も含まれているのか。

回答：この組織は代表者を置いておらず、組織に入りたい女性農業者は誰でも入ることができる。また、農業者だけでなく、菓子製造業者や種苗会社等の農業に関係する者がメンバーとなっている。

○鳴門藍住農業支援センター

<意見・質疑応答>

●特定課題について（質疑）

委員：特定課題は「食料の安全保障」に対応した取組となっているが、「多様なニーズに対応した経営体の育成」を選択した理由は何か。

回答：通常であれば、食料の安全保障となると、米、麦等の主食等農作物に対する取組となるところであるが、鳴門藍住農業支援センター管内は園芸産地であることから、まずは農業を行う人材の確保ということで、就農者や雇用労働力につながる取組について発表したところ。

2 教育研修業務の評価

<意見・質疑応答>

●アグリビジネスアカデミーのコース設定について（意見）

委員：アグリビジネスアカデミーには現在、大きく分けて5つのコースがあるようだが、このコース設定はどのように決めているのか。現在、国や県で「みどりの食料システム戦略」の取組が進められているようだが、ぜひ有機農業に関するコースの設置をしてはどうか。

回答：現在、減化学肥料・農薬や有機農業に関するコース設定ができないか検討しているところ。今後もコース設定については、農政課題に対応するものとなるよう意識していきたい。